

◆三橋百笑 選 ～朝日新聞の俳壇・歌壇より～

母の日に母を誘へば父も来る 松尾康乃

父の日に父を誘ったら、母はすぐ羽を生やして、ヤッター♪とたちまちどこかへ舞ひ立ちぬ。

あらがへど明日も老人更衣 森川清志

この老人と言う言葉の響き、実に良くない。だいいち体に悪い！寅さんじゃないけど「老人？それを言っちゃあお終いよー！」。百才の兜太選の句ですから、まあ一、許してあげましょうか。

男山又女山滴れり 江藤哲男

この短文の中に、上品でいて且つ押さえた色気までを感じさせます。人間、心にたくさんの色気を最後まで持っていたいものです。

母の日や母を忘れし母とゐて 永森ケイ子

本当に母と居るのに母の存在を忘れちゃうんです。あの行動的で容姿端麗な自慢の母、笑顔が抜群の母、それが百才も近くなれば動かず喋らず笑わず…。母似の私も今でこそ輝いている（んだ）が、確実にそーなるのか！助けてえー！
わたくしはハローワークで働きたいくらいハローワークに詳しい 岡崎陽子

ユーモアより寧ろ悲しみの方が滲み出ている句ですね…。ずしんと、心に迫ってきました。

ひょうたんに手を打ち笑ふ熟女かな 山本けんえい

「見て見て、このくびれ！！ったら凄いわね。わたしもコレには負けるワ、アッハハハー♪アッハハハー♪」。私もよく手を叩き大口開けて笑う熟女です！時には奥歯の詰物まで見せて、泣き笑うこともしばしば！熟女の陽気な大笑いが響いてきます。「笑い」は健康のもと。大笑いしたくて、したくての毎日です。「大笑い」できる日本の今の平和がずーっと続きますように。

最後は、私が現役の頃の大蔵俳句大会にての佳作です。

金子兜太選 任期終へし夫と車窓の青田かな

稲畑汀子選 バスを待ちをり稲の香に咽せてをり

ちよっぴり自慢しちゃいました。どうか大目にみてやってくださいませ。

◆伊藤洋二 選 ～会報六月号から九月号より～

暗算はとても苦手よ百足の子 工藤素子

百本の手足を絡めることなく運ぶ様は、二本足でさえ覚束ない高齢者にとっては自然の驚異である。幼子がやがて学ぶ算数を暖かい目で眺める様は、作者の優しい心情を余すことなく表現されており素晴らしいです。この百足君、物理学者になるかも。

地上の夏が階段を降りてくる 菅野あたる

「NHKプロジェクトX」のテーマ曲「地上の星」のメロディーを彷彿とさせる宇宙規模の夏が、締め切った？二階から降り注ぐ。作者の弩でかい自然観察眼に敬服です。ともすると虫眼鏡的俳句を詠む選者にとっては良きお手本となる一句です。

妻呼びて猫の応ふる端居かな 谷澤紀男

我家には「ポポ」と云ふトンキニーズの猫が居ますが、選者は興味ありません。で余り近寄りませんが、餌番の私に朝夕二回のみ擦り寄ります。その通り「餌」が唯一の接点です。猫好きの作者には可愛くて仕方がない…。愛情溢れる微笑ましい句です。

指揮棒に汗をあづける肥満体 藤岡蒼樹

髪振り乱し「ベートーベンの第九」を振る少々大柄の指揮者。いよいよ喜びの歌に入るクライマックス、一瞬指揮棒が顔面を横切りました。なんと額の汗が眼に入る直前に一振りで拭い去ったのです。一瞬の出来事でしたが、勿論アンコールの拍手は止みませんでした。作者の音楽的センスと芸術家への賞賛に拍手を送ります。

今年また同じ道行く蟻の列 津田このみ

涙なくしては鑑賞し得ない、自然を慈しむ作者の感性に脱帽です。炎天下の塀沿いの蟻の道を唯黙々と歩み続ける、乗り越えて来た半生を振り返り、残りの半生に向けて決意を新たにした選者です。俳句は心の日記です。有難うございます。

梅雨晴や足に力を入れて立つ 山本けい子

梅雨晴は森羅万象の中休みです、冬の眠りから目覚め、春に準備をし、初夏を迎え「天与の恵水」により大地に根を伸ばしたのです。しかし何事も急いで事は仕損じます。足場を固めるよい時期です。作者の力強い生命力に圧倒されます。元気を頂いた激励の句です。

浮いて来い現世なかなか面白し ひがし愛

ゲンゴロウでしょうか。食事を終え何時もの朝寝の最中です。公園を散歩中の作者は何か嬉しい事があったのでしょうか。さあ浮いてらっしゃい「源ちゃん」一緒に遊びましょうよ。清しい午前の光景です。クロード・モネの「睡蓮」の如き一句です。

脱がされて疲れはてたる競泳着 森岡香代子

アスリートの水着は時代の最先端に行くアパレルとか。しかし鍛え上げられた肉体を包んでこそ発揮される哀しさがあります。この日の競泳会では入賞しなかったのでしょうか。さあ来る選手権大会の表彰台でフラッシュを浴びましょう。哀愁溢れる一句です。